

小学校 算数

平成 31 年度(令和元年度)
全国学力・学習状況調査

調査問題の内容

学習指導要領に示されている各領域に基づき、被除数と除数にかける数や割る数を選び、 $600 \div 15$ を計算しやすい式にして計算する問題や、残り7ポール分進むのにかかる時間の求め方と答えを記述し、24 分以内にレジに着くことができるかどうかを判断する問題、長方形を直線で切ってできた図形の中から台形を選ぶ問題などが出題されています。

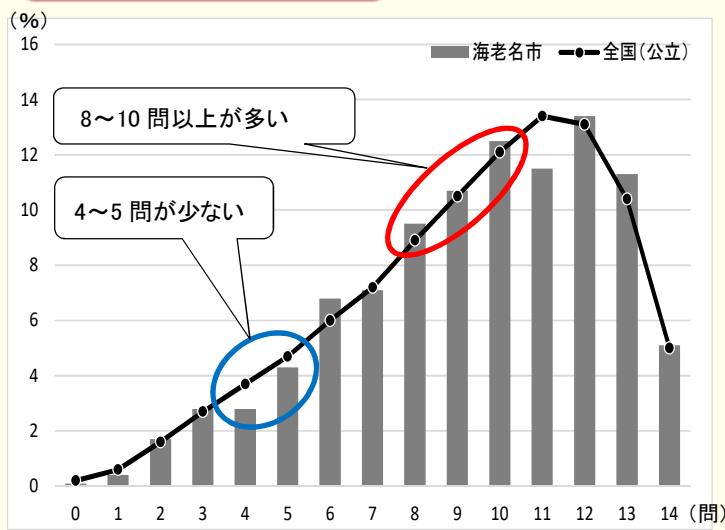
全体の結果

	海老名市	神奈川県（公立）	全国（公立）	全国との比較
平均正答率	67.0%	67.0%	66.6%	0.4
平均正答数	9.4 問 /14 問	9.4 問/14 問	9.3 問 /14 問	0.1

平均正答率…平均正答数を問題数で割った値の百分率。

正答数分布グラフ

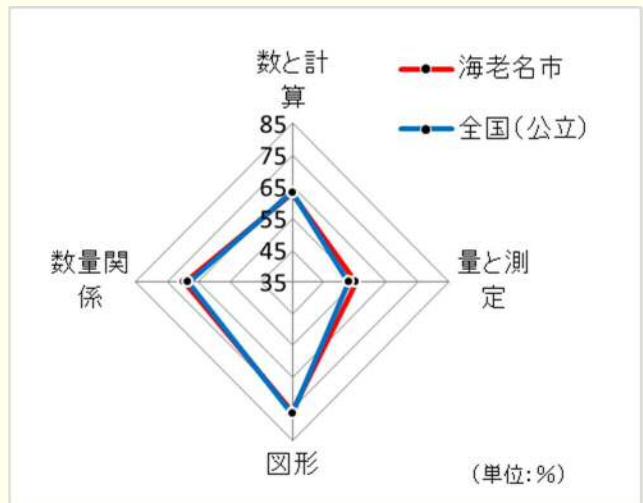
(横軸: 正答数, 縦軸: 割合)



- 正答率 50%以下(0~7 問)の児童の割合は 27.7%です。【全国は 28.3%】
- 正答率 80%以上(12~14 問)の児童の割合は 29.8%です。【全国は 28.5%】
- 中央値は 10 問です。【全国は 10 問】

中央値…正答数を大きさの順に並べた時に真ん中に位置する値。

学習指導要領の領域等の平均正答率



「数量関係」、「量の測定」の2つの領域は、全国と比較して上回っています。

分類・区別集計結果

分類	区分	対象問題数	平均正答率(%)			平均無解答率(%)		
			海老名市	全国(公立)	全国との比較	海老名市	全国(公立)	全国との比較
学習指導要領の領域等	数と計算	7問	63.0	63.2	-0.2	3.4	3.2	0.2
	量と測定	3問	55.2	52.9	2.3	3.7	4.1	-0.3
	図形	2問	76.1	76.7	-0.6	0.4	0.4	0.1
	数量関係	7問	69.4	68.3	1.1	1.8	1.7	0.1
問題形式	選択式	5問	75.8	75.7	0.1	1.2	1.0	0.2
	短答式	5問	72.7	72.8	-0.1	2.0	1.9	0.1
	記述式	4問	49.2	47.4	1.8	5.5	5.8	-0.3

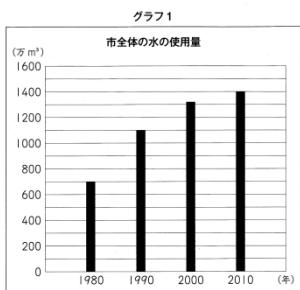
海老名市の結果についての分析

- 平均正答率、平均正答数、中央値を見ると、全国と比べて大きな差は見られません。
- 平均正答率が全国を上回った問題は、14問中7問です。また、平均正答率が80%以上の問題は、14問中5問(全国は4問)です。
- 問題形式から見ると、「記述式」の問題は4問中3問で全国の平均正答率を上回っています。
- 無解答率が全国よりも高かった問題は14問中7問です。

全国の正答率と差が見られた問題の例

2

かいどさんたちは、水を大切に使っているのかどうかを知りたいと思い、まず、自分たちの住んでいる市では、水をどのくらい使っているのかを調べています。かいどさんは、グラフ1を見つけました。



- (2) グラフ1の、2010年の市全体の水の使用量は、1980年の市全体の水の使用量の約何倍ですか。
- 答えを書きましょう。

小学校算数のすべての問題は、国立教育政策研究所のホームページで見ることができます。

2 (2) 2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の約何倍かを、棒グラフから読み取って書く

趣旨 2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の約何倍か読み取ることができる

正答 約2倍

◇この問題の正答率

海老名市	83.4%
全国(公立)	78.6%
(全国との比較)	+4.8

考 察

- 資料の特徴や傾向を読み取る際に、目的に応じて差を求めたり、何倍かを求めたりしながら、資料の中の数量の大きさの関係を読み取る力が身についています。
- 加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることや、計算の順序のきまりを理解して計算することに課題があり、指導の工夫が求められます。

指導の改善にむけて

◆計算について理解を深めるために

- 計算の順序のきまりについて理解を深めることができるように、具体的な場面と関連づけた授業づくりに努めます。
- 計算に関して成り立つ性質を見いだすことができるように、適用する数の範囲を広げていきながらほかの数値の場合でも成り立つかどうか確かめるように指導します。

◆課題に興味をもって最後までじっくり取り組むことができるようにするために

- 児童が興味をもって課題に取り組むことができるように、日常生活や生活経験と関連づけて指導します。